

令和5年度第1回 四條畷市産業振興ビジョン推進協議会（会議録）

開催日時	令和5年8月4日（金） 午後3時～4時15分
開催場所	四條畷市役所 本館2階 ミーティングルーム
出席者	平井委員長、谷委員、上村委員、松川委員、中西委員、北田委員（順不同） （事務局）市民生活部地域振興課
次第	1 前回会議からこれまでの経緯について 2 産業振興ビジョンの中間見直しにかかるスケジュールについて 3 第1回産業振興検討委員会での議論について 4 産業振興ビジョン上半期の総括について 5 今後の進め方について 6 その他

1 前回会議からこれまでの経緯について

（事務局）

前回会議からこれまでの経緯について説明。

2 産業振興ビジョンの中間見直しにかかるスケジュールについて

（事務局）

産業振興ビジョンの中間見直しにかかるスケジュールについて説明。

（平井委員長）

庁内組織と推進協議会がキャッチボールをしながら見直しを進めていくというやり方については、産業部署だけでなく、全庁で何が起きているかを共有し、検討をしており、非常にしっかりと進められているという印象を受ける。

3 第1回産業振興検討委員会での議論について

（事務局）

第1回産業振興検討委員会（7月19日開催）での議論（要旨）について説明。

4 産業振興ビジョン上半期の総括について

（事務局）

産業振興ビジョン上半期（平成30年度～令和4年度）の取り組み実績及びKPI等について説明。

(松川委員)

総括として色々と挙げていただいていたが、やはりコロナの影響が一番大きく、商業に関しては完全にストップしているところもあった。今の商店街を見ても、コロナ禍の間に店舗が大きく変わってしまったというのが実情で、物販の店舗が飲食業に変わったりというケースも出ている。今後検討していくなかで、当初と大きく変わっているの、そういった現場を踏まえうえで考えていく必要があるのではないか。

(平井委員長)

産業振興ビジョンについては、大型商業施設ができるといった要素も策定理由のひとつではあるが、特に商業の分野になると思うが、松川委員から見てどういう問題が見られるか。

(松川委員)

客層は大きく変わってきており、これまで高齢の地元のお客さんが多かったが、5年も経てば若い人が増えてきている。一方で、食品スーパーは別にして、商店街がそのような新しいお客さんのニーズに対応できているかという課題を感じる部分もある。

同時にイオンモールができ、人の流れも一部移動してしまっている部分もある。時代が変わってきているのに対し、商店街がどれだけ対応できているのかということについても考えていかないといけない。

(上村委員)

四條畷の商工会で会員が約 900 おられるが、大変厳しいこの3年間に関しては、市及び大阪府からの要請により、商工会の会員・非会員については分け隔てなく対応し、この間、外に出ていくことはなかなか難しいが、相談に来られる方については、すべて対応させていただいている。

この間、大変厳しい経営状況のなか、小さいところについては廃業しようというところも多く、また工業系に関しても、四條畷だけの問題ではないが、例えば修理を生業にしているところや、小さい部品を作っているところなど、その部分では非常に貴重なところがあるものの、後継ぎもないこともあり、人知れずなくなってしまうところも結構あったように思う。恐らくこの3年余りの間に、大阪の中でも結構増えたように感じており、非常に残念な思いを持っている。

観光の部分では、例えば明治のころに四條畷神社ができ、そのおかげで四條畷警察や保健所、四條畷高校ができ、そういった恩恵を受けていた時代もあり、昔は四條畷神社のおかげで潤ったというようなこともあったと思う。

一方で、例えば室池にしても、良いところと思っても老朽化が目立つようになってきており、それを観光で、しかも財源としてつけていくのは難しい部分はあると思うが、そういった部分にも目配りは必要だと思う。

四條畷神社のことを少し話すと、参拝客が減ってきたというようなこともあるが、「なにわ七幸めぐり」であったり近畿一円のなかで 152 霊場のひとつに数えられたり、何とか参拝客を多くすべく考えておられている。そういった意味では、観光は四條畷にとつ

てメインではないけども、考え方によっては増えていくような方法もあるのではないかと感じる。

観光から商業に話が変わるが、昨年「1,000円マルシェ」という、それぞれのお店に行ってお金を落としてもらうという企画を商工会の青年部で考え、開催した。今年にはできないが、そういった掘り起こしてみたいなものがうまい具合に行けたら、ちょっと違った方向に行くのではないかと考えている。

(平井委員長)

製造業については、東大阪と比べると数が違ったりする状況はあるが、製造業の支援として足りていないと感じる部分はあるか。

(上村委員)

製造業で市との連携や商工会のなかで検討することはなかなか難しいこともあり、工業系の部分は非常に少ないという点はある。

ただし、市からも先進的な取り組みを進めていこうというところに対しては助成するといった取り組みを今年度から行っていただいております、商工会も業務委託されているため、この2年間で前向きな方向に進んでいければと考えている。

(谷委員)

農業は産業としては高齢化が進んでおり、農地を維持するのも難しくなっている。

地産地消・この地場でとれたものを地域で消費するということでは、学校や保育所関係に供給しており、大きな供給は難しいなかでも市民の方にはそういう点で農業は貢献できていると思う。

(中西委員)

後継者、担い手がない。耕作する人がいなくなり、田んぼも少なくなっているうえに、肥料なども高騰している。厳しい状況である。

(平井委員長)

先日、枚方に住む学生が「れんげ農法」という農法で作ったお米があり、それを使っておにぎりのキッチンカーをしたいと言っていた。若い世代に農業の面白さみたいなものを伝えていくのはやはり重要なことである。

四條畷は大阪という便利なところでありながら、農業ができる環境があるという意味では、可能性も感じる。

(北田委員)

イオンモールができたが、高齢者はなかなか行けないので、やはり商店街が残ってくれないと困る。

また、道路に日影がなく、高齢者は大変な思いをしている。買い物のそういう部分も少し考えてほしい。商店街も凸凹が多く、こけた人を助けたり、救急車を呼んだりとい

うことが今まで何度もあった。

(松川委員)

イオンモールは車を持っている人や、学生であれば自転車や歩いて行っているようである。

(北田委員)

市民はイオンモールよりも商店街が活性化する方を希望している。

(平井委員長)

イオンモールは広域から集客できる施設なので、私の学生も結構行っているようである。市民の方が商業施設・商業機能を利用されるかというところでは、やはり商店街の役割はあると思う。

買い物の仕方が変わった部分もあるかと思う。高齢の方がオンラインを使わないわけではないが、これだけオンライン化が進むとどうなのかというところもあるし、飲食店だこの頃はテイクアウトなしには成り立たないところもある。買い物の仕方もういぶん変わったという印象がある。

(北田委員)

私はコンビニで買うよりはやっぱりスーパーで、同じものであれば安いところで買いたい。

(平井委員長)

そうですね。コンビニも今は高齢者に寄せているところもあるが。

(北田委員)

それでも経済的にはしんどいと思う。

(平井委員長)

コロナ禍の3年間のなかで、仕事の仕方や、買い物や生活の仕方がういぶん変わったというところもあるため、それを踏まえた産業振興を考えていく必要があると思う。

5 今後の進め方について

(事務局)

次回以降の論点及び任期満了に伴う委員選出母体見直しについて説明。

(平井委員長)

大前提として、四條畷の産業を考えるうえで、これからも委員の皆さんの能力が必要であり、実際にお住まいになっている方々の関わりが大切だと感じている。

(北田委員)

若い人にできるだけ入ってもらえたらいいと思うが、共働きが増えていることもあって、ボランティアやこういう役回りを引き受けてくださる人は少ないので、難しいのでは。

(中西委員)

農業でも同世代の方々が中心になり、若い世代はしていない。自分の代で終わりというところも多い。

(平井委員長)

時代的に収穫をどんどん増やそうとか、産業規模を拡大していこうというよりも、従事している方が充実して営んでいけるという見方ができればいいが。

これだけ SDGs や地産地消と言われる時代で、今こそ役割が見直されるのではないか。

私の学生も今丹波篠山の方で提案書を作って、マーケティングも含めてプロジェクトをしているが、嬉々としてやっている。そのような機会があればマッチングできるのかもしれない。

(谷委員)

観光関係の団体の方はおられないのか。

(事務局)

これまでは「ゆずりは」さんが観光団体の代表者として委員になっていただいていたが、事情があり、現在は辞退された状況。

(谷委員)

観光関係の団体は今後もおられないが、観光の観点についても議論するということか。

(事務局)

現在のメンバーでは、本日が最後となる。次回開催は10月以降となるが、その際に新たな委員を委嘱させていただいて開催していく。その際にどのようなメンバーになるかについては、いただいた意見を参考に、庁内の意見も含めて考えていく。

(平井委員長)

観光といっても四條畷にはいわゆる宿泊業協会のようなものはなく、難しいと思うが、それぞれの側面の観光、例えば観光農業のような側面であったり、東大阪でやっている産業観光で工場見学であったりとか色々と考えられると思うので、業としてやっておられる方は少なくとも、視点は必要であるように思う。

(上村委員)

総合戦略協議会とメンバーがかぶってこないようにしないといけないと思っている。

(事務局)

総合戦略については見直しを終了したが、総合戦略に基づいて取り組みを進めているので、その検証等をそちらの委員にさせていただいている。

市の総合戦略と産業振興ビジョンは連携していかなければならないとビジョンにも規定しているので、総合戦略を理解している委員がおられると良いという側面もあるので、その辺りも踏まえ検討していく。

(上村委員)

やはり若手の方々に関わってもらえたらいいと思う。

先ほど委員長からもキッチンカーのお話があったが、昨年までジャパンチャレンジャーアワードという創業支援事業を市が実施していたが、その中でも、キッチンカーで四條畷の地産地消、田原の野菜を使って商売するというようなお話もあった。それもおひとりだけがお話をしていただけではなく、そういった創業をしていこう、地元のものを使ってというようなことをおっしゃられた方も結構おられたので、良い方向に向かうのではないかと感じた。

(松川委員)

我々の商売はイオンのような大型スーパーではないので、地元の人に密着していく商売なので、やはり地元の農業なり、観光を含め、色々な業種が四條畷だからこういうことができますということを我々も考えて作っていかねばいけないと思う。

そういう意味では、産業振興ビジョンのなかで、そのようなものを作っていけると面白いと思うし、そのなかではやはり若い人の意見、新しいメンバーを入れるのであれば新しい発想ができる人を入れていく方が良いと思う。

(平井委員長)

委員については事務局の方でも検討されると思うが、やはり色々な発想を取り入れていかねばいけないという点はあると思う。

SDGsでも誰ひとり取り残さない、インクルーシブ、包摂性といったことを言われるが、高齢者も若い方も、どんな属性の方も、外国人の方もみたいなことで、色々な層を取り込んで、うまく反映できるような体制は必要であるように思う。

学生と接していると驚かされることが多く、何でも Instagram で検索する。我々からするとすごく世代間ギャップを感じるころはあるが、Z世代と言われるようなそういう層もあるので、そういった層も取り込んでいければというのは個人的には思います。

実際の体制については、今後ご相談はあると思うが、皆さんの意見を踏まえ、進めていただけたらと思う。

6 その他

(事務局)

次回会議（予定）について説明。

以上